

生研ニュース

☆講 演☆

◇助教授 北川英夫「腐食性その他の環境での疲労」日本材料学会，破壊の機構についての講習会，大阪科学技術センター（1964. 8. 6）

◇助教授 柴田 碧「多質点系応答波の疑似地震波への応用」第 1 回災害科学講演会，名古屋（1964. 9. 5）

☆寄 稿☆

◇教授 山辺武郎，助手（特別研究員）妹尾学「Electrokinetic Potentials of Ion-exchange Resin Particles」Nature **202** No. 4937, 1110（1964. 6. 13）

◇教授 浅原照三，大学院学生 片山志富「ポリグリコロリドの合成と物性」工化誌，**67**，362（1964. 6）

◇教授 浅原照三，大学院学生，片山志富「ポリラクチドの合成反応と生成物の性状」工化誌，**67**，956（1964. 6）

◇助手 朝倉利光「光領域での部分的偏光と電磁場の相関理論」日本物理学会誌，**19**，7，433~436（1964. 7）

◇助手 朝倉利光「光学」（照明年報）照明学会誌，**48**，7，361（1964. 7）

◇教授 浅原照三，研究嘱託 平野二郎「Telomerization of Ethylene and Carbon Tetrachloride Initiated by Alkanalamin and Metallic Salt」Bull of Japan Petroleum Institute，**6**，65~71（1964. 7）

◇名誉教授 高橋武雄，元助手 桜井裕，元技術研究生 坂本巧「亜鉛アマルガム還元器を用いた水中およびガス中酸素の連続ポーラログラフ分析法」分析化学，**13**，627~635（1964. 7）

◇名誉教授 高橋武雄，元助手 桜井裕，元技術研究生 並木一夫「水中溶存塩素の電量滴定法」分析化学，**13**，801~803（1964. 8）

◇名誉教授 高橋武雄，元助手 桜井裕，元技術研究生 矢部正裕「イオン交換カラムクロマトグラフィーにおけるアルギン酸塩の選択的挙動に関する連続ポーラログラフ的研究」工化，**67**，1210~1213（1964. 8）

◇講師 明石和夫「窒化ホウ素の特性」金属，**34**，16，63~68（1964. 8）

◇講師 明石和夫「窒化ホウ素の製法」金属，**34**，18，43~47（1964. 9）

◇助教授 山口楠雄「パターン認識」計測と制御（談話室）**3**，9，705~708（1964. 9）

☆著 書☆

◇教授 浅原照三「解説工業化学」共立出版（1964. 8）

◇教授 松永正久，助手 萩生田善明ほか所外者 6 氏と

共著「バレル研摩法」日刊工業新聞社（1964. 8. 31）

◇教授 久保田 広「光学」岩波書店（450 ページ 1,800）久保田教授多年の苦心の著作が発行された。幾何工学の基礎理論から波面光学に至るまでを応用に重点をおいて詳述したもので，光を波動として扱う干渉，回折は次巻に譲ってある。

☆海 外 渡 航☆

◇第 5 部 大島太市助手は，ポルトガル・リスボン市にて開催の第 10 回国際写真測量会議に出席のため 8 月 22 日出発，オランダ，西ドイツ，イギリス，スウェーデン，フランス，スペイン，インド，イタリア，スイスなどを回り 11 月 4 日帰国の予定。

◇第 2 部 川井忠彦助教授は西ドイツ・ミュンヘン市にて開催の第 11 回国際応用力学会議に出席のため 8 月 23 日出発，スウェーデン，オランダ，イギリス，フランス，スイス，イタリア，中華民国などを回り 10 月 4 日帰国の予定。

◇第 1 部 玉木章夫教授はポーランド・ワルシャワ市にて開催の第 15 回国際航空学連合総会に出席のため 8 月 31 日出発，ポーランド，アメリカ，イギリス，フランス，西ドイツなどを回り 10 月 9 日帰国の予定。

◇第 1 部 伯野元彦講師はアメリカ・コロンビア大学において不規則振動論の研究に従事するため 9 月 2 日出発，来年 9 月 3 日帰国の予定。

◇第 2 部 水町長生教授はアメリカにおけるガスタービン，特にラジアルガスタービンの発展の状態について調査研究のため 9 月 2 日出発，9 月 19 日帰国の予定。

◇第 5 部 丸安隆和教授はポルトガル・リスボン市において，開催の第 10 回国際写真測量会議に出席のため 9 月 5 日出発，スペイン，イタリア，スイス，西ドイツ，オーストリアなどを回り 10 月 9 日帰国の予定。

◇第 1 部 鈴木恒子技官はアメリカ・ミンガン州立大学において，統計光学の研究に従事するため 9 月 13 日出発，41 年 7 月 20 日帰国の予定。

◇第 4 部 今岡稔助教授はデンマーク・コペンハーゲン市において開催の国際ガラス会議に出席のため 9 月 13 日出発，スウェーデン，西ドイツ，オランダ，ベルギー，スペイン，スイス，イタリア，アラブ連合，インドなどを回り 10 月 27 日帰国の予定。

◇第 1 部 辻泰助手はカナダ・オタワ市カナダ国立科学研究所において研究継続のため 40 年 8 月 17 日に帰国の予定。

☆国際会議の開催☆

◇9 月 1 日より 1 週間，ICO (International Commission for Optics) の "Conference on Photographic and Spec-



ICOの会場となった東京プリンスホテル

“toscopic Optics”が開かれた。この Commission には 16 カ国が加入しているが、Conference への参加国に制限はなく未加入国からの参加者も相当あり、参加者は日本人もあわせ約 500 人であった。学術会議および応用物理学会の共催で、ICO の副会長でもある第 1 部の久保田広教授が Secretary General として采配をふるわれた。会場は新築の東京プリンスホテル(芝公園)で、9 月 1 日の営業開始であるので会議にまにあうかどうか心配されたが、さすがに当日までには、りっぱに完成して会議はどこおこなう行なわれた。

日本の光学工業は戦後世界に伸び、老舗のドイツをしのごうとしているが、これは業界の努力もさることながら、基礎的の学問が十分進み、学界との協力がうまくいっているためである。この実情を見聞した研究の交換を行なおうというのが日本でこの会をやるという話の初めて、一昨年ミュンヘンにおける ICO の総会で満場一致で決まったものである。このため話題も光学工業

に関係するものが多く、約 80 にのぼる講演や、会社の見学、討論等によってほぼ所期の目的をはたしたように思われる。特に光学工業研究組合という組織を活用した産学協同研究により、他のいずれの国よりも進んだ成果をあげたレンズ性能研究委員会(委員長 久保田教授)のレスポンス関数の実用化に関する研究は、十いくつかの研究発表および試作測定機 6 台の展示によりその成果が示された。

これらのことは他の講演や展示、研究所の見学とともに日本の光学および光学工業はカメラだけが幸運にも世界に進出し得たものでなく、十分な学問および技術的の広い裾があり、すぐれたレンズの完成およびカメラ工業はこれらを背景として伸びたものであることを十分に了解してもらいたいと思う。

◇9月7日から11日まで、マイクロ波、回路理論、情報理論に関する国際会議が電気通信学会主催のもとに赤坂プリンスホテルで行なわれた。国内 640 人、国外より 290 人参加した。本所関係の発表論文は次の通りである。「Cassegrain Antenna for Space Communication and Satellite Tracking」教授 齋藤成文その他

「A Light Circuit Using Faraday Effect of Heavy Flint Glass」教授 齋藤成文、助教授 浜崎襄二、助教授 藤井陽一

「Measurement of Microwave Shot-Noise Reduction Factor by Laser-Light Induced」教授 齋藤成文、助教授 藤井陽一

生研ニュース

筆者

- ◇中島利誠 助手(特別研究員)工博 専攻 高分子化学
- ◇中沢護人 技官 専攻 鉄鋼製錬工学
- ◇池辺 陽 助教授 工博 専攻 建築配置および機能学
- ◇高島松雄 助手(特別研究員)工博 専攻 応用工学
- ◇金子昌能 日本電子KK

紹介

- ◇西川精一 助教授 工博 専攻 金属材料学
- ◇下田 聡 技術員 専攻 金属材料学
- ◇小島陽一 同上 同上 電子顕微鏡
- ◇明石和夫 講師 専攻 非鉄製錬工学
- ◇江上一郎 教授 工博 専攻 非鉄製錬工学
- ◇鈴木鉄也 技官 専攻 非鉄製錬工学
- ◇湯瀬源市 KK精機研究所

出版委員	委員	川井 忠彦	委員	*明石 和夫	専門委員	星野 昌一
出版委員長 星 埜 和		野村 民也		石井 聖光		菊池 真一
委員 玉木 章夫		高羽 禎雄		小林 一輔		
山田 嘉昭		野崎 弘			編集室	水野 清明
*大島康次郎		山辺 武郎				
松永 正久						*印当番委員

第 16 卷 第 9 号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として、毎月1回発行する)

1964年9月1日発行 印刷所 三美印刷株式会社

東京都荒川区日暮里町8-93

発行所 東京大学生産技術研究所

東京都港区麻布新電土町10

電話(402)6231(代表)

千葉実験場 千葉市弥生町1

電話千葉(51)8311(代表)

頒価 100 円

編集者 星 埜 和
 発行者 岡 本 舜 三